

コロナ禍における就労支援センターの取組等についてのご報告

武蔵野市障害者就労支援センターあいる
山岡 誉

このたび協議会が書面開催になるにあたり、福祉保健局様より、コロナ禍における就労支援センターの取組についての報告、情報提供をとのことでご依頼をいただきました。

このことを考えていくにあたり、まずは、この新型コロナウイルス感染症が、就労支援センターの業務やご相談いただく内容について、どのように影響したのかを共有させていただくことが必要と思います。それと同時に、企業側から就労支援センターに対してどのようなニーズがあるのかというものを整理し、就労支援にかかわる皆様と共通認識を持つ必要があるのではないかと思います。

さて、多摩地域には就労支援センター間の情報共有や学習会の場として、多摩地域就労支援事業連絡会があります。弊所(あいる)は今年度より幹事市センターとして参加をさせていただいています。この多摩地域就労支援事業連絡会では、昨年7月に、緊急事態宣言下および直後の状況について多摩地域31センターを対象としたアンケートを実施いたしました。

アンケートの設問は大きく3つで、①緊急事態宣言中の支援について、②緊急事態宣言中のご利用者の状況について、③宣言解除後のご利用者の状況についてです。コロナ禍における就労支援センターの状況について、アンケート内容から支援センターの声をご紹介します、またこのたびの緊急事態宣言下での状況と比較しながら、以下の項目について述べさせていただきます。

1. 企業就労している障害者がテレワークや在宅勤務、在宅待機となった際の生活支援の取組やありかた、企業との役割分担など

<緊急事態宣言下での状況>

- 昨年の緊急事態宣言下において、弊所に登録されている在職者の方のほとんどが、在宅勤務や在宅待機に切り替わりました。企業のご担当者にとっては、在宅勤務をする社員に対しての業務切り出し等の対応についてかなりのご負担があったことと存じます。会社で担当していた業務をそのまま自宅等で行う、いわゆる“テレワーク”に移行した方は少数で、業務と自己研鑽を行う“在宅勤務”扱いになった方が多数を占めました。さらに、在宅勤務となった方の多くは、在宅における具体的な業務の切り出しが難しいため、(やむを得ず)、自己研鑽に取り組むようにとのことでの在宅勤務という形が多かったろうと思います。アンケート結果にも、「在宅勤務が自主学習になっており、自分が何をすればよいか分からない(という相談を受けた)」という回答がありましたが、ほとんどのセンターで多く見られたケースと思いま

す。またそもそも「ご自身が在宅勤務扱いなのか、自宅待機扱いなのかをご理解されていない」というケースもあったようです。

- 支援センターの多くは、センターにおける感染予防対策にも追われながら、とにかくこまめな電話やメールで、登録者の状況把握に努めたという回答が多く見られました。混乱の時期の中、企業と支援センターそれぞれが、それぞれの動きの中で障害のある方へのフォローアップをしていたような印象です。テレワークや在宅勤務に馴染む業種であればまだ良く、例えば清掃業務や厨房業務など、テレワークや在宅勤務が馴染まない業種で働いていて、宣言解除以降も自宅待機になっている方などが、無事に復職できるのかどうかという点についても、多くの支援者が不安を募らせ始めた時期でもあると思います。
- 今回の緊急事態宣言では、昨年ほどの影響は見られていません。弊所などではZOOM等リモートでの定着支援よりも、平時同様に、訪問しての定着支援が多い状況です。所内での面談についても、感染予防対策をしたうえで、通常通り実施しています。登録者からはコロナに対する不安の訴えはほとんど見られなくなりました。また、コロナ要因による離職、解雇等の相談が急増しているということもありますが、今後の雇用情勢という点で影響は避けられないだろうと考えます。

<在宅就労を実施する企業への支援について>

- 企業から支援センターに対しては、在宅勤務中の社員に関する情報共有のご相談はいただいたものの、生活支援の取組や企業との役割分担ということについての踏み込んだご相談があったということは、少なくとも弊所では受けておらず、アンケート結果からもそのような回答は見られませんでした。今回の緊急事態宣言においても、おそらく同じことが言えるのではないかと思います。しかしながら、例えば障害者雇用における事務サポート業務では、この状況下でのテレワークの促進によりサポート業務が減り、また昨今のペーパーレスの動きもあって、紙を取り扱う仕事は今後も減少していきます。この<在宅就労で何を取り組んでもらうか>という課題は、今後送り出す側の就労支援機関や教育現場にとっての就労準備における課題になるということも我々は意識する必要があると思います。
- 企業にとっては「在宅勤務の社員に対して、何を取り組ませるか」、支援機関にとっては「在宅勤務の方や企業に対して、どのような支援メニューを用意できるか」が、それぞれの課題ということだと思います。アンケートの中にも、「今後のテレワークの普及により消滅するであろう職種に就いている人や、そういった事業を抱えている企業への職域開拓支援も必要である」といった回答も見られましたが、いずれにせよ、冒頭に述べたように、まずは企業のセンターに対する具体的なニーズを整理する必要があると思います。また、支援センターの立場で申し上げると、業務確保は雇用・労務管理の範囲で行うことが第一だと思いますので、まずは企業の中で整理をしていただく必要があろうかと思います。
- 弊所の登録者で、身体の病気のため、長期に休職をされていた方が、テレワークという形で復職を果たしたケースがありました。情報通信関連の会社にお勤めの方ですが、このコロナ

禍で会社全体にテレワークの動きが加速し、その動きに乗じての復職でした。あまり PC は得意な方ではありませんでしたので、支援者が会社と同行し、業務支援という形でテレワーク用の PC セットアップを支援し、テレワークが行えるかどうか自宅のネットワーク環境を確認し、会社ご担当者とは業務内容や勤怠管理の方法などを確認させていただきました。PC とネットワーク環境があれば、どこでも仕事にアクセスできるという働き方は、まさに障害のある方にとってチャンスであることに間違いのないと思います。

- アンケート結果から、多くの支援センターで、ZOOM等のオンラインツールの準備が整ってきていることがわかります。感染予防対策として支援機関の訪問が難しい企業の方とも、オンラインツールを活用した定着支援等が可能な状況と思いますので、企業ご担当者の方には是非ご活用いただければと思います。

<地域資源との連携>

- 障害のある方の中には、「いつまでこの状況が続くのが分からない」という見通しが持てないことによる不安、また家庭環境やご家族との関係性が良くなく、在宅勤務をすることでご本人、ご家族の体調の悪化につながるケースが少なくないと思います。弊所でもこのようなケースが昨年から継続しており、会社側の理解も得たうえで、在宅勤務時に弊所のスペースを日中活動の場として活用していただいている事例がいくつかあります。
- 現在の制度では、すでに就労されている方について、就労移行支援事業所、就労継続支援 B 型事業所等の利用が難しいため(定着支援事業を除く)、生活リズムの安定や日中の活動場所の確保という点で、利用できる福祉サービスが限られています。
- 在宅勤務の方に対しては、会社で在宅勤務の業務切り出しをしていただく、あるいは自己研鑽のための課題を提供していただくことが第一かと思いますが、大幅な時短勤務になった方や、自宅待機となっている方については、地域の就労支援系の福祉サービス利用を、一定の要件のもとで、特例として認めていただくような仕組みを作っていただけないか、ご検討いただければ幸いです。

<コロナ流行下での転職・退職支援(雇止めの事例やその対応も含む)>

- 今年度のコロナを要因とする退職について、弊所では3つのケースがありました。コロナ不安による自発的な退職、事業所閉鎖による退職、退職勧奨を受けての退職がそれぞれ 1 名です。アンケートの結果からも、31 センター中、9センターでコロナ要因による離職者は一定数いるという回答であり、特に飲食業に集中していました。「閉鎖する事業所から、失業する障害のある方について再就職の相談を受けた」という回答もありました。
- 昨年 7 月時点において、コロナ要因による離職者は出ていないと答えたセンターの数が多いということになります。就労実績の報告が必要となる障害者雇用では、障害者雇用で採用された方が優先的に勤務シフトに入ることができ、一般のパート雇用の方がシフトに入れず不公平な扱いになっているといった話も聞こえてきています。コロナで離職を余儀なくされた障

害のある方は一定数いるものの、雇用率維持という側面から、比較的雇用が守られているという印象です。また、在宅勤務扱いになっている方に対しては、しっかりと給与補償をされている企業が多く、全体的に雇用維持の動きが強かったことについては大変心強く感じています。

- アンケートから、時短勤務などで収入減があった方への支援として、副業・兼業に関する相談に応じたセンターもあることがわかりました。
- 転職支援や退職後の福祉サービスのご紹介という部分においては、支援センターはすでにノウハウを持っていると思いますが、解雇や雇止めに関する労働法等の知識を持ち合わせている方はそれほど多くないと思いますので、この状況が長引くことで、対応に苦慮するケースが増えてくることを懸念しています。

以上